

## 10年支出明細から見る支付宝(Alipay)の未来

クララオンライン中国  
コンサルティングチーム

### <要約と結論>

中国最大の EC 事業者、阿里巴巴グループ傘下の決済サービス「支付宝」はこのほど、サービス開始 10 周年を記念して、過去 10 年間の利用明細が確認できる「10 年支出明細」機能をリリースした。これまでの支払い総額や利用傾向に加えて、支出ランキングや 10 年後の資産予測も示されるもので、ただの明細照会という位置づけではなく、友人同士で順位を競わせて支付宝の利用を増やそうという意図も感じられる。また併せて公表された全国の過去 10 年間の利用データをみると、沿岸部の利用者が成長をけん引してきたことがわかった。しかしモバイルからの利用に限ると内陸地域や農村部の利用率がより高くなっており、支付宝の今後の 10 年を担う存在になるかが注目される。

### 1. 支付宝(Alipay)とは

中国最大の EC 事業者、阿里巴巴グループ傘下の決済サービスとして 2004 年 12 月 8 日に誕生した。当初は同社が運営する CtoC マーケット「淘宝网(Taobao)」向けのエスクローサービス(第三者が決済を仲介することで取引の安全性を保証するサービス)として始まったが、今ではネットショッピングの決済以外にも、公共料金の支払い、クレジットカードの返済、送金、金融投資など様々な機能を備えている。

現在の支付宝のユーザー数は 8 億人ともいわれ、アクティブユーザーは 3 億人を超えている。同社の発表によれば、2014 年の財務年度(2013.4.1~2014.3.31)の総支払い額は 3 兆 8720 億元(約 73 兆円)に達した。毎日 8000 万件を超える取引を処理しており、1 日平均 100 億元(約 1900 億円)以上の支払いを行っている。



支付宝の公式サイト <https://www.alipay.com/>

スマートフォンの普及に伴ってモバイルからの利用も増え、2013年11月にはモバイルアプリ「Alipay Wallet」をリリース。2014年10月にはアプリのアクティブユーザーが1.9億人に達し、モバイルからの取引が全体の50%を超えるまでになった。近年はアプリを使ったオフラインでの決済サービスにも力を入れており、タクシーやバスの運賃、コンビニ、ドラッグストア、駐車場、一部の自動販売機にも利用が広がっている。また海外展開にも積極的で、香港、台湾、シンガポール、韓国などでも利用できる店舗が広がっている。

## 2. 「10年支出明細」で利用総額にびっくり

支付宝は2014年12月8日に過去10年間の利用履歴がわかる「10年支出明細」を発行した。これまでも毎年年末になると1年間の利用明細を発行していたが、2014年はサービス開始から10年の節目にあたることから、過去10年間の利用総額はもちろん、支払い内容の分析、金融商品でいくら稼いだのか、利用総額は友人の中で何番目かといったデータが提供された。ユーザーの中にはSNS上で自身の明細を公開する人も現れ、その金額が大きな話題となっている。

北京に住むある支付宝ユーザーの明細を見てみよう。スマートフォンのアプリを開き、真ん中の「開戸十年账单」をクリックすれば明細を確認することができる。この日は支付宝を初めて利用してから第3088日目にあたるようだ。すぐ下にある「去2024(2024年にGo)」をクリックすると、現在のペースでいけば10年後に財産がどのくらいになるのか、友人の中で何位なのかが表示される。





このユーザーの場合、2024年の財産予測は7300万元で「いつでもパリに行ってハトにエサをあげることができる」というイラストが表示された。2024年の「土豪榜(成金ランキング)」は友人の中で第2位となっている。

また過去10年間にこのユーザーが支付宝を使って支払った総額は21万6939.72元(約410万円)だった。2013年から急に支払い額が増えているのは、仕事で立て替えることが増えたためだ。中国では会社の経営者や経理担当者が個人のアカウントを利用して支払いをしていることも多いため一概に個人の消費額とみなすことはできないが、インターネット上に公開されている明細には驚くほど高額なものもある。



さらに支払いの内訳を見ると、振込の利用が全体の47%で、ショッピングが19%、ファッションが13%、交通が8%、美容が2%だったことがわかる。



このほか、支付宝のMMF(マネー・マネジメント・ファンド)商品である「余额宝」でいくら稼いだかも一目でわかる。余额宝は支付宝のアカウント内にある残高を使った金融商品で、残高を移すだけで手軽に始められる上、利回りも良く、投資したお金をいつでも買い物に使うことができるとあって一気にブームが広がった。2013年6月のスタートから1年足らずの2014年3月末には余额宝の残高が5413億元にまで膨れ上がっている。このユーザーの場合、これまでに1291.6元を余额宝で稼いだことがわかる。

また過去に支付宝を通じてお金のやり取りをした友人もわかるようになっており、アイコンの大きさでどれだけ“親密”かがわかる。このユーザーはこれまでに24人の友人とお金をやりとりしていた。

もちろん過去にどのサイトでいつ何を買ったのか、取引ごとの詳細情報を確認することもできる。この「10年支出明細」を見たユーザーのほとんどが「いつこんなに買い物をしたのか全く覚えていない」、「何に使ったのかわからない」、「これだけお金があればXXできたのに」といった感想を持つようで、微信(WeChat)をはじめとするSNS上には後悔のコメントが溢れている。その一方で「こんなに使ったもんね!」という成金自慢も数多く見られ、利用額を元にした友人グループ内での順位付けには「さらに支付宝を利用してもらおう」という戦略が見え隠れする。



379万元(約7000万円)もあれば別荘が買えたのに・・・

<http://house.baidu.com/bj/scan/0/5947982541108851193/>

### 3. 全国の過去 10 年間の利用状況は？

支付宝が「10年支出明細」と同時に発表した2014年10月末時点の全国の利用データによれば、過去10年間の総利用額からみたトップ5は広東省、浙江省、上海市、北京市、江蘇省で、全体に占める割合はそれぞれ15.5%、12.5%、9.3%、9%、8.8%だった。いずれもインターネットの普及率が高い地域で、ネット上では「中国インターネット経済の成金5省」と揶揄されているほどだ。

過去10年間の総利用額に占める割合



一方、総利用回数に占めるモバイルからの利用比率(モバイルアプリ「Alipay Wallet」の利用を含む)で見た場合、上位はチベット自治区、陝西省、寧夏回族自治区、内蒙古自治区の西部地域が占め、それぞれ62.2%、59.6%、58.3%、57.6%だった。利用額で上位の北京市は29位、上海市は24位、広東省は27位となっており、モバイル決済の利用においては明らかに西高東低となっていることがわかった。これは内陸部で固定インターネット回線の普及がまだ十分に進んでいないことが大きく関係しているものとみられ、なかでもチベット自治区は3年連続でモバイルからの利用比率が全国1位となっている。

また2014年(1月1日～10月31日)の一人当たり平均利用額では、上海市が3万8561元(約73万円)で2位を5000元あまりも引き離れた。しかし上海市を省レベルの行政区としてではなく、一つの都市としてみると全国4位にとどまった。都市別の一人当たり平均利用額は1位が浙江省杭州市で4万4197元、2位は浙江省金華市で3万9965元、3位は安徽省黄山市で3万9029元だった。

2014年の一人当たり平均支出額 (2014.1.1-10.31)



さらに小さい行政区である県単位で見ると、一人当たり平均利用額が2万元(約40万円)を超える県は全国に66あり、トップ10のうち9県が浙江省に属している。トップ100にランクインしたのは浙江省から5県、江蘇省から26県、福建省から14県で、この3省で全体の7割を占めている。

同社によれば、過去10年間の支付宝の総利用回数は423億回で、このうちネットショッピングの支払いを除いた水道光熱費、クレジットカードの返済、携帯電話の通話料チャージ、振込の四大便利決済機能の利用回数は約60億回に上っている。



モバイル版の支付宝

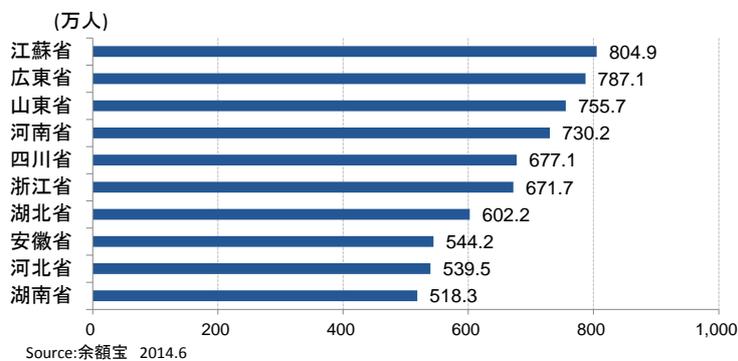


Web版支付宝の水道光熱費支払い画面

これらは今まで銀行やそれぞれの支払い窓口で長時間並んで支払うのが一般的だったもので、近年は時間と交通費の節約になるとして支付宝をはじめとする決済サービスでの支払いが急増している。

このほか、残高を利用した MMF 商品「余额宝」の利用者は、2014 年 9 月末時点で 1.49 億人に達し、預かり資金規模は 2014 年末時点で 5789.36 億元となった。サービス開始から 1 年で利子の総額は 200 億元を超え、一人当たりにして 133 元となった。

余额宝の省別利用者トップ10 (2014年6月時点)



余额宝の利用者を年齢別にみると 1980 年代生まれが 43.9%、続いて 1990 年代生まれが 33.2%を占め、平均年齢は 29 歳となっている。省別では江蘇省が 804.9 万人で最も多く、2 位は広東省、3 位は山東省と続く。

預かり資金規模を世代別にみると 1990 年代生まれは全体のわずか 6.38%を保有するに過ぎないが、1980 年代生まれがおよそ半分の 49.76%、1970 年代生まれが 28.31%を保有していることがわかった。



余额宝の 1/26 時点の 7 日間平均利回りは 4.37%



なお余額宝に移した資金はいつでも引き出して利用することができる。そのため投資資金および利子をネットショッピングの支払いに充てている利用者が全体の 61%を占めたほか、クレジットカードの返済に使っている者が 31%、光熱費の支払いにまわしている者も 8%いた。2014 年 11 月 11 日の「双十一」の大セールでは、当日の売上 350 億元のうち 17.4%が余額宝からだったほどだ。余額宝の利用は直轄市や省都のような 1・2 級都市から、3・4 級レベルの地方都市や農村部へと拡大しており、2014 年第 3 四半期(7-9 月)の利用者増加率は 1・2 級都市が 14%だったのに対して、3・4 級都市では 21%に達している。

内陸や農村部に住んでいてもスマートフォンさえあれば、支付宝を通じて支払いから投資、各種生活サービスまで何でも手軽に行える時代になった。今回発表された「10 年支出明細」では消費の主力がやはり沿海部に集まっていることが明らかになったが、さらに 10 年後の 2025 年にはどうなっているだろうか。支払い総額や利用傾向が今とは全く違うものになっている可能性は大きく、特に内陸部や地方都市の潜在的な消費能力に期待が高まっている。

- 本レポートに含まれる情報は一般的なご案内であり、包括的な内容であることを目的としておりません。また法律・条令の適用と影響は、具体的な状況によって大きく変化いたします。具体的な事業展開にあたってはクララオンライン コンサルティングサービスチームより御社の状況に特化したアドバイスをお求めになることをおすすめいたします。また本書の内容は 2015 年 2 月 2 日時点で編集されたものであり、その時点の法律及び情報、為替レートに基づいています。

本書はクララオンライン コンサルティングサービスチームにより作成されたものです。クララオンラインの中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各国のインターネットコンサルティングサービスに関するお問い合わせは以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。

asia@clara.ad.jp または +81(3)6704-0776